

HAPPY MIE PROJECT

すべての子ども・若者に「安心」と「希望」を！



7.21 ウッドピア松阪の木材倉庫

私は、2019年10月2日一般質問で、「木の学校づくり」(学校の木造化・木質化)の推進をとりあげ、その中で「県産材利用促進条例」策定の検討を要望いたしました。
これを受け、2020年2月に三重県議会「三重県産材利用促進に関する条例検討会」が設置され、私も検討会のメンバーとして調査や議論を重ねています。



三重の木づかい条例(仮称)中間案 抜粋

木材、その中でも県産材を最も優先して利用する
「三重の木づかい」を進める社会をめざします。



目的

県民及び事業者の参加の下、木材利用の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、林業及び木材産業の健全な発展による地域経済の活性化と、県民の快適で豊かな暮らしを実現すること。



基本的施策

1 県の率先利用

- 県の整備する公共建築物において、原則として県産材を使用し、木造・木質化
- 県の整備する工作物及び調達する物品において、県産材の利用に努める

2 木材利用の推進

- 県以外の者が整備する公共建築物における木材利用の推進
- 公共建築物以外の建築物における木材利用の推進
- 建築物以外の分野における木材利用の推進
- 木材利用の推進に関する研究及びその成果、技術等の普及
- 関係事業者等の人材の育成及び確保
- 県産材の魅力の向上の促進及び県産材の国内外への販路拡大



11.4 公立大学法人
国際教養大学
(秋田県)

さまざま
調査
しました!!



「もりずむの木」
は100%天然
乾燥木材

7.21 NPO法人もりずむ
(美杉町)

みごとに
秋田杉の
図書館



いよいよ
今年は

「三重とこわか国体・ 三重とこわか大会」です!!

「選手ファースト」「安全・安心な大会運営」の視点で開催されます。全力で励む選手に、皆様の応援をよろしくお願い申し上げます!



三重とこわか国体
第76回国民体育大会 2021年 9月25日(土)~10月5日(火)
ときめいて人 かがやいて未来 2021
三重とこわか大会
第21回全国障害者スポーツ大会 2021年 10月23日(土)~10月25日(月)



県政・県議会に対しての
ご質問やご意見をお待ちしています。



杉本ゆや事務所 〒514-0003 津市桜橋2丁目142
TEL 059-226-6252 FAX 059-227-7139

YOU(あなた)とYUYA(ゆや)をつなぐYY(わいわい)通信

春号
2021年

YY通信
25号

ゆや 活動報告

発行責任者／三重県議会議員 杉本熊野

新しい年が始まりました。

未だ新型コロナウイルス感染症の拡大が続き、私たちは大きな不安のなかにあります。

人間社会が、このウイルスに何か試されているような感覚を覚え、この先世界は、日本は、どんな社会へ向かうのかと考えさせられます。

人と人の距離の確保や、日々の活動の制限が強化されるほど、私たちは、人とのつながりやこれまで当たり前だった日常を求め、自分にとって、本当に大切なものは何かに気づかされています。

コロナ禍は、飲食業や観光・宿泊業等への影響が大きく、また、今の産業構造を反映して非正規労働者、なかでも女性たちが大変厳しい状況におかれています。

格差拡大のなか社会的弱者や、生活者の視点がこれまでに以上に必要です。

加えて私は、環境問題への取り組みが不可欠だと考えます。経済活動の制限下で、昨年、インドの首都ニューデリーからヒマラヤ山脈が見えるようになり、イタリアの「水の都」ベネチアでは、運河が透き通り、魚たちが泳いでいるとのニュースがありました。また、新型コロナウイルスは、コウモリなどの野生動物が宿主だとの説があり、開発などによって人と動物との接触の機会が増えたことが背景にあるとの指摘もあります。

今回のパンデミックは、気候変動対策や地球の持続可能な開発の重要性について、あらためて私たちに問いかけています。

コロナ後の新しい未来に向けて、私は、二酸化炭素排出ゼロめざして取り組んでいかなければならないと考えます。

今後とも、皆さまのご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

マスクなしの
笑顔になりたい!!



コロナが終息しますように!!



松阪市飯南町仁柿の皆さま製作

新型コロナウイルス感染防止対策の徹底を!

発熱等の
症状がある方の
受診方法

発熱、咳などの症状がある場合...

- ① まずは、かかりつけ医等の身近な医療機関に電話でご相談
- ② 相談する医療機関に迷う場合は以下の「受診・相談センター」へご相談

受診・相談センター (「帰国者・接触者相談センター」から名称変更しました)

津保健所 TEL 059-223-5345 受付/9~21時(土日祝も対応)

21時~翌9時までは 三重県救急医療情報センター TEL 059-229-1199

※電話での相談が難しい場合は、メールまたはFAXにてご相談ください

メール yakumus@pref.mie.lg.jp FAX 059-224-2344

まずは電話を!!



2020年
10月5日

一般質問に立ちました！

本会議を傍聴・テレビ視聴して下さった皆さん、ありがとうございました！



ストップ！地球温暖化



日本では、毎年のように、大型台風や集中豪雨等の異常気象が頻発しています。地球温暖化は、人類最大の危機です。未来に対する責任は、私たち大人にあり、特に、大きな権限、権力を持つ者の責任が、とても重いと思います。経済社会システムを大転換していかなければなりません。



Q 質問 1

脱炭素宣言

「ミッションゼロ2050みえ」の推進を！

知事は、2019年12月、2050年までに三重県域からの温室効果ガスの排出実質ゼロをめざす、脱炭素宣言「ミッションゼロ2050みえ」を力強く発信しました。脱炭素社会を、今後どのように進めていくのか、知事の考えは？

温室効果
ガス

排出実質
ゼロへ!!

A 知事答弁

コロナ禍からの社会経済活動の再開にあたっては、循環型のライフスタイルの構築や再生可能エネルギーの導入など「グリーン・リカバリー（緑の復興）」の視点が重要です。今後、県民、事業者、行政など様々な主体がオール三重で取り組んでいくため、推進チームや大学生等による若者チームを立ち上げます。

プラスチック製レジ袋の原則有料化が始まりました。レジ袋はプラスチックごみの総量の0.5%とわずかではありますが、環境問題を考えるきっかけとなっています。その一方で今、テイクアウトの弁当箱など使い捨てのプラスチックが増えています。

有料化

Q 質問 2

プラスチックごみ対策について

プラスチックごみを焼却し、得た熱を用いて発電し、エネルギーとして回収する方法は、プラスチックごみを、同じプラスチックに再生するマテリアルリサイクルや、分解して化学製品の原料として用いるケミカルリサイクルと比較すると、温室効果ガスの削減効果が、小さくなります。温室効果ガスの排出を削減するためには、プラスチックごみの焼却を減らす取り組みが必要です。プラスチックごみ対策の今後の取り組みは？

A 廃棄物対策局長答弁

使用済みペットボトルを原料としてペットボトルを再生産する水平リサイクル（ボトルtoボトル）を進めることが重要です。このボトルtoボトルの工場の立地が今、県内で進められており、関係事業者と連携して、ペットボトルの水平リサイクルの仕組みづくりを進めます。また、今は焼却や埋め立て処理されている使用済みプラスチックを効率的にリサイクルするための環境整備について検討していきます。



コロナ禍における 子どもの安全安心を！



Q 質問 1

子どもの安全安心を守る 学級編制基準の制定を！

今、学校では、手洗いやマスクの励行、消毒、「3つの密」を避けるための対策が行われています。しかし、どうしても回避できないのが、教室の密です。マニュアルでは、レベル3の地域では、児童生徒の間隔を可能な限り2メートル、最低1mを確保するように求めています。今の40人学級では難しいです。子どもたちの安全安心を守るためには、現在の学級編制基準は見直すべきです。

A 教育長答弁

国に対し、来年度から少人数学級を計画的に進めることを強く要望し、学級編成基準の引き下げの動きが前に進むよう取り組んでいきます。また、今後の国の動向をふまえながら、本県としての対応について検討していきます。

1学級に40人は密です!!



政府は、40人学級（小学1年生は35人）の学級編制基準を、小学校に限り、全学年を2021年度から5年かけて段階的に35人まで引き下げる方針を決定。

Q 質問 2

増えています。修学旅行不参加の子どもたち！

修学旅行に行かなかった、行けなかった子どもが増えています。不参加の理由の一番は、新型コロナウイルス感染拡大の影響によるものですが、保護者の収入減など家庭状況の変化を、しっかりと把握する必要があります。また、就学援助費の修学旅行費は、後払いではなく、前払いとなるよう、市町と連携して進めていただきたい。

修学旅行に
行けない...



A 教育長答弁

修学旅行費の前倒し支給に関する先進的な例などを情報収集し、市町教育委員会と意見交換などを通して、どのような対応ができるか共に検討していきたい。

進めます！ひきこもり支援

三重県におけるひきこもりは、満15歳から64歳まで合わせて16140人と推計されていますが、家族を含めると、多くの皆さんが苦しんでいる、社会の課題です。どうすれば、再び社会とつながれるのか？支援の在り方を、社会全体で考えていかねばなりません。私は、一般質問でひきこもり地域支援センターの機能強化について質問し、家族会との連携について要望しました。



「誰一人取り残さない」ひきこもり支援は、地域づくりの究極だと思います。

今後の三重県の取り組み

- 令和2年度中に、庁内横断的な検討会議を立ち上げ、他県や先進自治体の取り組み事例の把握、ひきこもり地域支援センターの役割の再検討、計画の方向性の検討を行う。
- 実態を把握するための調査を行う。
- 令和3年度に、外部有識者を含めた検討委員会を設置し、新たにひきこもりに特化した推進計画を策定し、令和4年度から新たな計画と体制に基づく対策を進める。

2020年活動アルバム

この頃は
マスクのない笑顔が
いっぱい！

1.18



毎月18日は津観音の縁日です

1.19



月に一度のカフェが楽しみ

1.19



あたたかな地域づくりです

2.22



いつもの仲間で楽しいおしゃべり

今は
マスクのなかにも
笑顔です！

4.12



養正小学校へマスクのプレゼント

8.4



予算決算常任委員長として知事要望

11.15



三重県総合防災訓練in伊勢市

12.13



水源の森で楽しい野外イベント